



SERVE TO CHANGE LIVES



クラブ会長ターゲット
「ロータリアンとしての成熟」
"REACH MATURITY
AS A ROTARIAN"
2021-2022年度
東京臨海ロータリークラブ会長
佐藤 大輔



国際ロータリーテーマ
「奉仕しよう みんなの人生を
豊かにするために」
"SERVE TO CHANGE LIVES"
2021-2022年度
国際ロータリー会長
シェカール・メータ



衛星クラブ議長ターゲット
「クラブライフを楽しもう」
"Enjoy club life"
2021-2022年度
東京臨海北斗ロータリー衛星クラブ議長
坂本 康朋

2021年12月15日

東京臨海 RC 【第1224例会】
東京臨海北斗 RSC 【第33回例会】

東京臨海RC

創 立：1994年8月8日
会 長：佐藤 大輔
副 会 長：杉浦 孝浩
幹 事：勝間田 健一
プログラム
構成委員長：田中 紘太
(会報担当)

東京臨海北斗RSC

創 立：2020年12月18日
議 長：坂本 康朋
副 議 長：小松 啓祐
幹 事：勝間田 健一

12月15日の卓話

「イニシエーションスピーチ」
東京臨海北斗RSC会員 菅原 友行様
東京臨海北斗RSC会員 竹下 信男様

12月22日の卓話

「イニシエーションスピーチ」
東京臨海北斗RSC会員 寺田 千春様
東京臨海北斗RSC会員 山口 雅弘様

《東京臨海RC・東京臨海東RC・東京臨海西RC・
東京臨海北斗RSC 4R合同例会》

東京臨海西 RC 創立4周年記念例会
2021年12月3日(金)12:30~13:45
東武ホテルレバント東京4階「錦の間」
東京臨海RC第1222回例会
東京臨海東RC第1145回例会
東京臨海西RC第78回例会
東京臨海北斗RSC第31回例会

司会：東京臨海西RC平井SAA委員

■点鐘：東京臨海西RC 西野充英会長
東京臨海RC 佐藤大輔会長



東京臨海東RC 今西 勇会長
東京臨海北斗RSC 坂本康朋議長



■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング斉唱「奉仕の理想」

：ソングリーダー：東京臨海西RC 岩崎裕馬会員

■「四つのテスト」「ロータリーの目的」東京臨海西
RCVer. 唱和：東京臨海西RC 大星太郎副会長



■来賓・卓話者紹介：東京臨海西RC西野充英会長

◇東京臨海西RC特別代表・東京臨海RC 斉藤実様

◇東京臨海西RC発起人代表・東京臨海RC 鈴木孝行様

◇東京臨海西RC 米山奨学生 オーチソムオン様



◇ゲストスピーカー

江戸川区児童相談所（はあとポート）
援助課長 上坂かおり様

◇ゲスト

NPO法人らいおんは一と理事長 及川信之様

NPO法人チャイボラ代表理事 大山遥様

■ビジター紹介

- ・東京臨海西RCビジター：東京臨海西RC
東京江東RC会長 小嶋映治様
東京江東RC幹事（ゴルフ幹事）板倉健司様
- ・東京臨海RCビジター：東京臨海RC尾身会員



澤 亨様（菅澤会員ゲスト・入会希望者）

■東京臨海西RC会長挨拶：西野充英会長



■来賓祝辞

◇東京臨海西RC 特別代表・東京臨海RC 齊藤実様



■乾杯：東京臨海西RC 飯塚憲貴直前会長



■幹事報告：勝間田幹事



■委員会報告

■出席状況報告：伊藤会員



東京臨海 RC

会員数：58名
出席：43名
欠席：15名
出席率 75.44%

東京臨海北斗 RSC

会員数：23名
出席：16名（例会場：15名 ZOOM：1名）
欠席：7名
出席率 69.57%

■ニコニコ BOX 報告：伊佐委員



（ご意向）東京臨海西RC創立4周年、おめでとうございます。：佐藤会長、杉浦副会長、勝間田幹事、酒井会員、竹下会員、櫻田会員、佐久間栄一会員、内海会員、柴田会員、小松会員、坂本康朋会員、佐久間裕章会員、濱田会員、小林誠会員、橋本会員、太田会員、見浪会員、樋口会員、本多会員、伊藤会員、秋田会員、寺田雄司会員、田中会員、井上会員、高橋会員、村社会員、今井会員、須藤会員、小田桐会員、白井会員、大貫会員、米衛会員、入澤会員、白幡会員、菅原会員、須田会員、田村会員、大西会員、尾身会員、篠塚会員、金城会員、小林健一郎会員、今会員、大澤会員、伊佐会員

（ご意向）台北仁愛RC35周年記念のビデオメッセージ、よろしくお願ひします。：齊藤実姉妹クラブ担当副委員長

（ご意向）米山奨学生アンちゃん歓迎会、参加頂きありがとうございました。アンちゃんも大変よろこんでいました。：山田晃久会員

【45件 88,000円 今年度累計 721,000円】

■記念品贈呈：東京臨海西RC 西野充英会長

◇ご挨拶：一般社団法人パラボールリーグ協会
理事長 栗山義広様

◇ご挨拶：NPO法人らいおんはーと
理事長 及川信之様



◇ご挨拶：NPO法人チャイボラ
代表理事 大山遥様

◇ご挨拶：一般財団法人比国育英会バギオ基金
副会長 齊藤実様



■卓話（紹介：東京臨海西RC 大星太郎副会長）

大星副会長

本日の卓話者のご紹介をさせていただきます。

本日の卓話者は江戸川区児童相談所はあとポートの援助課長を務めていらっしゃいます、上坂かおり様です。われわれ臨海西ロータリークラブは3年くらい前から、先ほどもお話があったように、NPO チャイボラさんの支援をさせていただいております。チャイボラさんとは児童養護施設を支援している団体でして、主にそこで働く職員の人材不足を解決するために活動している団体なんです。

われわれもお金出さずだけでなく、現場の方もちょっと見た方がいいだろうという感じで、先月上坂課長の協力を得まして、江戸川区児童相談所と児童養護施設の見学に15名に行ってもらいました。大変立派な施設で勉強になったんですが、本当に想像以上にいろんな問題を抱えているということが分かりましたので、今日はもう少し詳しく上坂課長からお話をいただきたいと思ってお招きしたわけです。上坂課長、よろしくお願ひします。

「江戸川区児童相談所について」

江戸川区児童相談所（はあとポート）援助課長
上坂かおり様



上坂課長

改めまして、皆さんこんにちは。私、今ご紹介にあずかりました、江戸川区児童相談所はあとポートで援助課長をしています、上坂といいます。今日は本当にこの大切なお時間を児童相談所のお話に割いていただきまして、本当にありがたく思っています。私たちの児童相談所についてもっと知っていただくことが、児童虐待防止の一つの引き金になるかなと思っていますので、ぜひ今日いろいろ聞いていただいてご理解いただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

まず私の自己紹介から少しさせていただきます。

私、江戸川区児童相談所で援助課長をしています。私が拝命させていただいたのが、昨年4月1日に児童相談所の開設と合わせて、この部署に異動させていただきました。それまでは区役所に25年ほどになりますが、子ども関係部署をさまざま回らせていただいて、昨年4月よりこの部署に来させていただいております。併せて、仕事をしながら子どもを3人育ててまいりましたので、そういった経験がほんとに今の仕事にも役立ってるなということで、改めて感じるところではあります。

では、説明の方に入らせていただきます。まず施設概要の方ですね。画面でもいいですし、手元でもいいので見ながらお聞きいただければと思います。

先日皆さん、西野会長を含めご見学の方来ていただきました児童相談所、中央3丁目でございます。昨年の4月に建った児童相談所です。最近、港区であるとか、それから中野区もどんどん児童相談所設置していく中にはありますけれども、児童相談所だけの建物ではなくて皆さん複合施設が多い中、やはり江戸川区は児童相談所のみでこれだけの建物を建てたというところでは、やはり江戸川区の思いというのがここに詰まっているかなと思います。もしお時間等あるときがありましたら、また見学にお越しいただければと思います。積極的に開かれた児相を目指しておりますので、さまざまな方に見ていただいて、ご理解いただければと思っております。

次に児童相談所開設の道のりについて少しお話をさせていただきます。児童相談所、法律が改正したので建てたというよりは、江戸川区には本当に熱い思いがあって児童相談所を建てさせていただいております。それが2010年になります、小学校1年生の男児の虐待死事件であります。もう10年以上前にはなりますが、当時虐待の事実を児童相談所と子ども家庭支援センター、学校、医療機関、全てが把握しながら誰も積極的に動かなかった。それによって支援のすき間に落ちてしまって当時養父に虐待をされて亡くなってしまった、この事件がありました。

今ほど虐待はそれほどニュースで騒がれている時代ではなかった中で、ほんとにそのときには江戸川区は非難にさらされたような状況でした。こちらの児童相談所開設してからも多田前区長の元に訪問させていただいてますけれども、やっぱりあのときは本当につらかったというのを区長はお話しになっていた通り、それから区としては、大切な子どもの事業を都に任せてはいけな、区でやってくんだとそういった強い思いを持って、児童相談所を区にということで動きが始まったところなんです。

当時はまだ全く形もなかった中で、多田区長をはじめ国に働き掛け、東京都に働き掛け、本当に積極的に動いていただき、平成28年、2018年ですね、児童福祉法が改正になりまして、それに伴って特別区でも児童相談所が設置が可能になりました。そこでいの一歩に手を挙げたのが江戸川区です。どこよりも先に児童相談所をつくるんだ、そういう思いでこの児童相談所開設に至ったというところがあります。

なので、ほんとにこの昨年4月にできた児童相談所は、いわゆる悲願の児童相談所というところで、地域の方にも議会の方にもいただいて開設をさせていただいたというような状況です。写真等ございますので、後で見いただければと思います。

続いて虐待対応の流れということでさせていただきますが、児童相談所では子どもに関するさまざまな相談を受けています。江戸川区の児童相談所は子ども家庭支援センター機能も内包してますので、ほんとにさまざまな相談を受けてますが、親に児童相談所は怖いイメージとか、どんなことをしてるとか大変なイメージみたいなのがありながら、なかなかどういう流れをされてるとかっていうのはお分かりになってないかな

と思ひまして、少しこの一番代表的な虐待通告の流れというところを説明をさせていただければと思ひます。

まず、どんな形で虐待を受けるのかなというところで見させていただくと、学校から子どもが「お母さんにたたかれた」ということで、例えば連絡が児童相談所に入ります。そうすると児童相談所の方の職員でいろいろ状況をお聞きするんですけども、その中ですぐに、まず子どもに話を聞きに行きたいので、昼休み、場所などを用意してくれますかというところで学校とお話をするような状況です。

その後、「調査」という形に入んですけども、そこでただ普通に聞くのではなく、やっぱり住所であったり、世帯構成であったり、保健情報であったり、兄妹とかあと通院状況、警察の状況というのを、これは至急調査を始めます。その調査結果を受けて、今度は「緊急受理会議」というのを開催します。ここでは所長をはじめ管理職がいる中で、こういった通告が来たのでどういう方針でやるか、そこを判断するというところの会議をします。

さらにそれを受けて、じゃ、どういう対応にしようかというのを受け、「初動」というところですぐに職員が学校に行きます。心配だから話を聞きに来たよいうところで、こういったところでお話をします。大体他の子どもたちにはばれないように、昼休みみんなが遊んでるときに他のお部屋を案内したり、そういった配慮をしながら話を聞くようにします。

その中で、例えばおうちに帰るのが怖いとか、ちょっと傷痕がひどい、そういった状況になりますと、そこから「一時保護」という形になります。でも、子どもにはできるだけ、嫌がってる子は連れてくというのは難しい中で、ただ安全性が必要なおときにはよく話をして理解した上で、安心できるところでちょっとお泊まりしようかというところでお話をし、一時保護をさせていただきます。

さらに、今度は一時保護の入所というところになりますけれども、一時保護所でのルールであるとか、一時保護所はこういうところだよというところの説明をした上で入所という形になります。

さらにその後、大体、午後通告等入ることが多いんですが、その後保護者に連絡を差し上げる形になります。ここが一番児童福祉司が緊張するところです。家に帰ってくるはずだった子どもが帰ってこない、児童相談所から電話が来たってなると、大体保護者は緊張します。私たちもそこがすごく緊張するところです。そこで「不適切な養育が見受けられる疑いがあるので、子どもさんを一時保護させていただきました」というお話をします。

その中で、大体その日のうちに面会を設定します。午後にその子どもさんを連れてきて、夜電話をして、大体夜6時とか7時ぐらいから保護者との面接が始まります。必ず親御さんが言うのは「子どもをすぐに帰してください」「私はやってません」「しつけの一環でやったんです」そういった方は多いです。

こちらまだまだ若い職員が多いですから、ここで机

をたたいたりとか、どう喝されたりっていうところで、そんな中で保護者に事情を説明して、子どもさんのことを一緒に考えていきましょうというところでお話をします。納得いただけない場合には、家庭裁判所での裁判になってるケースも多いです。年間そういったものもあります。

その後、保護した後どうなるかといいますと、「社会調査」というのをさせていただきます。当然家庭訪問もしますし、その中でさらに、家庭だけで養育することで虐待が起きてしまうということであれば、親族の調査もさせていただきます。あとは保護者向けのプログラムがあります。たたかない子育てをするためにどうするか、そういったところの保護者プログラムを案内して参加してもらったりとかします。そういうふうには調整をすることで、安全に家庭に帰れる方法っていうのを模索をします。

次に、さらに子どもさんを預かって、ただ預かってるのではなくて、一時保護所というところで「行動観察」をしています。というのも大体、どうしても怒りたくなってしまう子どもって、子どもにも特性があることが多いです。発達に特性があったり、友達との距離感が難しかったりっていうのがありますので、そういったところで行動観察っていうのをしています。

生活習慣が整ってるか、これは小さい子に多いんですけども、ネグレクトの子どもっていうのは大体、話し掛けられたり世話をされてなかったっていうことで虫歯だらけであったりとか、もう大きいのおむつを着けたまんまであったり、そういったところからネグレクトの状況が把握できますので、そういった行動観察をしますし、併せて友達との関係、友人との関係とかそういったのを見ながら、親御さんがこの子であればかなり養育が難しかったらというところも、この行動観察の中で把握をします。

さらにその中で心理士による面接もさせていただきます。この心理士が面接するのは大体IQを見させていただいたりとか、あとは虐待を受けたトラウマの指数、どのぐらいトラウマを受けてるかな、そういったのを心理テストなどで把握をします。それによって虐待による子どもの傷つき状態を見るような形です。その傷つき状態を見ながら、今度はじゃあこの子はおうちに帰れるんだろうか、施設の方がいいのんだろうか、里親さんがいいのかな、そういったのを考えていきます。

さらに「医学診断」といひまして、児童精神科医の先生から来所していただいておりますので、その先生にも診ていただきます。その中で、医学的に親からの虐待によるPTSD症状がないかとかそういった診察も受けたり、あとは発達障害を持ってるのに医療受診をしてなかった、そういったときにはお医者さんの見立てもしてもらったりってことをします。

そういったまとまった情報を保護者の方に、今度は面接を繰り返しますが、返します。「この子はこういった特性があるお子さんです」って言うてもなかなか理解が難しいので、絵で見せたりするといひですよとか、耳で聞くと難しいのであれば視覚的に訴えた

方がいいですよ、そうすることで子育てはできますよとか、あとはさまざまな支援サービスを紹介します。おうちに帰ったときにはこういうサービスいかがですかというところの話をしてします。

さらには、その後家庭に帰る子は学校での関わりというのがありますので、関係諸機関でみんな集まって、これからの支援であるとか、あと情報共有、そういったのに努める会議もします。大体その期間でおおむね2カ月ほどかかって、そういった対応をさせていただいているような状況です。

その後家庭に帰れるお子さんに関しましては、「家庭復帰」という形になってます。一時保護して入所に至るのは大体30%ぐらいですので、残りの70%の子はおうちに帰っていきます。家庭で再発しないということが大切なので、その中で「通所支援」というのを繰り返していきます。家での生活どうですかとか、プログラムの成果どうですかとか、心理士が面接して子どもの変化、また家に帰って暴力振るわれてないか、そういったのを確認しまして、おおむねそこで3カ月～6カ月支援をしまして、そして最終的に安定して子どもが暮らせてるねというところで、支援を終了するような状況になっています。

子どもさんによっては、やっぱりこの保護者には危険だということで、家庭復帰ができない場合というのがあります。先ほど話もありましたので、施設入所ということでありますので、そういったときは大体保護者が養育困難とって自分の病気で養育ができないというときに、治療が進んでない場合にはなかなかおうちに帰せませんので、そういった場合であるとか、あとは保護者が一切改善がないと、何がいけないんですかと、たたくことが何がいけないんだというような場合にはやっぱり子どもの安全確保できませんので、そういったときは帰すことができません。あとは経済的状況が確保できてない場合、そういったときには児童養護施設であるとか、里親ですね、そういったところをご案内をさせていただいています。

その次には、じゃあ今後入った、いわゆる家庭に帰れない子がどうしているかというところは、そこにも書かせていただいておりますが、0歳～2歳の子は乳児院に行くような形が多いです。最近ではほんとに若年の出産であるとか、全く検診未受診による＝00:15:36＝と私たち言いますがそういったケースも多く、0歳0カ月での保護というのもうち非常に多いです。やっぱりとても弱い存在ですので、安全性を確保して保護するというのが多いです。

その後2歳～18歳のお子さんに関しては、児童養護施設であったり、あとは里親ですね、ファミリーホームとかそういったのを活用しています。皆さんできる限り里親さんとかファミリーホームがいいのですが、なかなか数が足りていないというのが現実でありまして、多くの子は児童養護施設に行くような形になります。

その後18歳で高校を卒業して家庭に帰る子もいますし、その後1人暮らしになる子もいます。あとは延長ということで、措置延長で今22歳までいることも可能

ですので、施設で暮らしていきたいという子に関しては22歳までいることが可能になっています。なかなか勉強が得意でなかったりとかっていう、大学に行ったりしないといえることができないので、進学が難しいということで18歳で出てしまうという子たちが中には多いんですけども、実はそういう子たちというのが、いきなり社会に出されてしまってほんとに生活が不安定になる現状が多く見られています。

今もケアリーヴァーという言い方で施設退所後の子たちの課題っていうのが出てますけど、児童養護施設等で育ってきた子って守られて育っているので、社会に出されてしまったときに頼れる大人もいない、保護者もいない、なかなか施設に弱音も吐けない、そういった中で1人でいろんな間違っただ契約してしまったりとか、生活に困ったりっていうので生きづらさを抱えている子が多いのが、最近現状としてあります。

そういったのが流れの中で児童相談所で対応させていただいてますが、じゃあ児童相談所ではどのぐらいの相談を受けてるのだろうというところでお話をさせていただきます。

年間の相談の件数は5,216件。これは虐待だけではなくってさまざまな子育ての相談を含めた、受けてる件数です。さらに虐待の通告件数は2,042件です。去年1年間に2,042件受けました。1児童相談所で受ける虐待件数としては、全国で10番に入っています。300ほど児童相談所ございますけれども、その中でもほんとに高い水準の虐待通告を受けているというのが現状です。

続いて年間の一時保護、先ほど見た一時保護した件数は343件です。これも23区でほんとに多いです。東京都内でも多いのが江戸川区の特徴です。あとは施設等で暮らしている子、里親も含めてその子の人数は、3月31日現在ですが354名います。東京都全体で3,900人と言われている中の、江戸川区で354人ですので、どう見ても比率的に高いというのは皆さん想像つくかなと思いますが、それだけ江戸川の置かれている現状というのが厳しいのが分かるかなと思います。

次に施設入所後家庭復帰する子の割合、35%になっています。65%の子は家に帰ることがなく、そういった環境の中で暮らしているというのが現状です。さらに、大学、専門学校進学率に関しては約27%というところで、今はさまざまな制度あるので大学に行きたいと言えば行くことは可能なんですけれども、そこに至るまでの経緯というのが実はほんとに難しくて。大学進学したとしてもかなり生きづらさを抱えていると考えると、やはりまず進学しているっていうことに持っていくことってというのが、私たちの課題なのかなとも思っています。

その流れで、児童相談所で先ほどの相談などの年間2,000件ぐらいやっていて、中でどんな体制なんだろうっていったときに、職員は183名でやっています。そのうち、私がいます援助課は103名の職員が日常的に動いています。日々虐待の対応、今まで関わっている子、施設に入所してる子、子育て相談、あとは障害に関する相談、そういったのを受けています。

予算は児童相談所全体で約 50 億円です。そのうち 32 億円が施設入所してる子たちの費用です。入所する費用って大体子ども 1 人につき 1,000 万ぐらい年間かかります。多ければ多いほど、やはりそこは予算的な負担にもなりますが、それだけ必要な子のための予算ということで区長含め皆さんの同意をいただいているような状況です。

あとは、江戸川区における社会的養護の状況を書かせていただいています。乳児院が、篠崎にわんぱく乳児院というのが 1 カ所あります。定員 36 名です。児童養護施設は江戸川 2 丁目につむぎの家という、今年 4 月 1 日にオープンしました、定員 24 名があります。養育里親、通常の特別養子の里親さんではなく養育里親は 29 家庭になっています。

その後続いてますが、里親も、大規模なファミリー型というファミリーホーム、これはまだ 0 です。自立援助ホーム、こちらはまだ区内にはありません。障害児入所施設も 0 ですし、児童心理治療施設、これは東京都内にもまだ全くないと。心の傷を負った子が生活していくところですけどもそこもないというところで、他の国はファミリーホームや自立援助ホームが当たり前にある中で、またこんなに虐待の子たちがいる中で、これらの施設がないというのが江戸川の現状です。

ここから、傷ついた子どもに何が起きているかというところで書かせていただいております。ここをお話しさせていただく前に、愛着形成についてちょっとお話をさせてもらいます。

愛着ってご存じの方もいると思いますが、生まれて 0 歳、大体 6 カ月～2 歳ぐらいまでの間に子どもとお母さんの間に築かれる愛着形成っていうのがあります。そこは人間の生きていく基盤になっていく大切なことです。具体的には、泣いたときにおむつを替えてくれる、ミルクを与えてくれる、困ったとき転んだときに抱き締めてくれる、大丈夫？ってさすってくれる、声を掛けてくれる。

そういった関係の中で、愛着っていうのは初めて形成されるんですが、実はこの幼少期にお母さんが疾患を抱えていたりとか、あとは夫婦げんかが絶えなかったり、お母さんの養育能力が低かったり、そういったことが要因で愛着が形成できずにおっきくなっていく子どもたちっていうのが、後々の問題行動につながってるっていうのが明らかになっています。なのでさらにやっぱり、言うことを聞かないとたく、思い通りにならないとこの子は大変だといって、そもそもの地盤にやっぱりその愛着形成っていうのがあります。

虐待受けてる多くの子どもたちは問題行動も多いですけども、愛着ベースができていない子どもたちがたくさんいます。そういった子どもたちっていうのは、ここにも書かせていただいている通り、大切に思われる経験っていうのがないんです。なので、人のことを思いやるっていうことを自分が思われたことないので、なかなかそれを人に対してすることが難しいっていうのが現実としてあります。

また、保護者や大人によって傷つけられてしまった心っていうのは、何か薬で治療っていうのは難しく、

やっぱりそれを癒やせるのは人でしかないっていうのがあります。そこは愛着の形成のし直してっていうのもそうですし、心理教育というのが非常に重要になってきます。

次「頑張れるエンジン」って書かせていただいています。が、こういった愛着関係がきちんと育った中ですくすくと育つてく子は、何か苦難があっても立ち直ることができます。やりたいと思ったら頑張れる力あるんですけど、実はそういった経験がない子は頑張ることできないんですね。というのも、褒められたこともないですし、頑張るが何なのか、達成感みたいな味わったことがないので。

今よく言われるのが「いや、環境は整ってるだろう」、「勉強すれば大学に行けるんだから」とか「勉強して頑張れば」って言うんですけど、そもそも頑張る力がないのに頑張れっていうのがほんとにしんどくて、この子どもたちは、自分では気づいてないでしょうけども、そこがほんとに苦難だなというところで思っています。それこそ、環境が整っても満たされないものっていうのは、やっぱり心の奥底に心のつながりというかそういったのを求めながらも満たされないっていうところが、いつも問題行動につながったりとかほんとに生きづらさにつながってるのかなと思います。

さらに「希薄化する社会の中での生きづらさ」ということで。昔はこういった子がいたときに、しつこく世話をしてくれる方っていたんですね。ただ、今はあんまり言って迷惑がられたとか、何か嫌がられたっていうところで、なかなかしつこくやってくださる方ってほんとに少なくなってしまったっていうときに、あそこの子はほんとにしょうがないねというので終わってしまうっていうのが。それでもしつこく面倒を見てくれたり、例えばご飯食べさせてくれたりとか、世話をしてくれる人、そういう人たちがいなくなってしまったっていうのが、さらにこの子どもたちを希薄化してしまう社会の中に放り投げてしまうのかなと思っています。

「寂しさを満たすために」というところで、やはりこういう子どもたちはほんとに寂しさをいつも抱えてますので、その中でゲーム依存に入っていくたりとか、ネット依存に入っていきます。先日の保護した子は SNS で出会った男性と会うために新宿に行って保護されたりっていうのありましたが、「ネット社会の人はみんな優しい」と、「私の居場所はここだと思う。それは分かりますか」と。「こんないい世界ないんですよ」というのを私たちに訴えます。やはり彼女には、家には居場所がなく、学校にも居場所がなく、優しく声を掛けてくれるネットの存在、そこはほんとに重要でそこに依存していったというのがあります。

同様に、年を重ねていくと異性に依存していったり、性に依存していったり、そういったところは、自分の満たされなかったその寂しさをどこか満たそうということで、一生懸命もがき苦しんでいる様子なのかなと思っています。

そんな中で直面してる課題を少し書かせていただいています。やっぱり初め、先ほど言いました親子の愛着

の不全のところ、あとは育児負担っていうのも非常に大きいです。親御さんは子どもの評価は自分の評価だと思っています。なので、子どもが評価されないことは自分を非難されてると思いますから、非難されない子どもにするために厳しく、枠にはめようとしてしまいます。

養育能力が低いだけじゃなくて教育虐待も多いですから、このぐらい勉強できなきゃ駄目だ、このぐらい取らないと駄目だというところで、自分の枠にはめようとするので、ほんとに子どもが苦しくなってる。それはやっぱり社会の受け入れの体制にもあるのかなと思っています。

あと、今話題になってますヤングケアラーという話が出てますけれども、ひとり親家庭とか精神疾患を抱えた保護者、そういった保護者を抱えたお子さんというのは、実はお母さんが心配でしょうがないんですね。このまんま僕が学校に行ったら、お母さんはその間に死んじゃうんじゃないかとか。ここが具合悪いのは自分のせいなんじゃないか、そういうふうにも本能的に思っている子どもたちは多いです。なので、そういう子どもたちに「あなたが悪いんじゃないよ」っていうことを私たちは関わりの中で言いますし、そこら辺を解消しないと次へのステップには行けないのかなって思っています。

あとは傷ついた子どもの心の心理ケアってことで、やっぱり虐待で傷ついてしまった心の傷を大人になる前にやっぱり治療してあげたいっていうところで、心理士が積極的に関わろうとしています。家庭の中でも関わりながらそういったのができないかっていうところで、心理的ケアを行っています。

次が「若年の妊娠、住まい、就労」っていうところで。なかなか高校に行ったけれどもなじめない、そういったところで若年の妊娠であるとかっていうのは、江戸川区内はほんとに多いです。一般には非行っていう言い方になってしまいますけれども、そういった子どもたちが多く、そこは大体異性に依存していつていつていうのがあります。

そういった子たちが、児童養護施設も大体そういう子は受けてくれませんので、じゃあどうしてこういったときに、当然アパートは借りることができません。里親さんも「そんな大変な子は預かれません」って言います。ほんとに行く先に困ります。見守られるような住まいがあればとか、あとは、例えば住み込みの就労とかがあれば、そういったところに紹介したケースも何件かあります。ほんとにこういったところの子どもたち、今までいわゆる犠牲者だった子どもたちがこの年になって苦労するっていうのを、私たちも見てるのがほんとに苦しいなと思っています。

あとは、先ほど言いました施設等を退所した後の子どもたちの自立ですね。大学に行って解決するわけじゃありませんし、就職してもなかなか定職に就けないっていう子どもたちも多い中で、そういったところが課題になっています。

最後にちょっと皆さんにお願いしたいことを、ちょっと厚かましくも書かせていただいています。やっぱり

今私が話させていただいたのは、ほんとに対症療法にすぎないと思っています。大事なのはやっぱりほんとと未然に防いでくことだと思っています。

今日もいらっしゃってます及川さんのらいおんは一とこのようなところで、子どもを常に見守ってくれる地域の活動、子どもの活動、なんでもない活動でいいので、そこに来る子どもたちを見守ってくれる、そうするだけでおそらく家庭の気持ちが楽になったりとか、子どもがこんないいおじちゃんいるんだ、おばちゃんいるんだみたいなところで、そこに支えられながら生きていける子どもたちがいるのかなっていうのを思っています。

あとは、これはもう皆さんに対してというよりは、やっぱり社会がまだまだ偏見がすごいです。問題の子どもは親の養育が悪いんだというところで、そういうふうに見られてしまう。それよりも、発達に特性のある子は元々生まれ持った特性があったりするので、そのいいところも必ずあるので、そこを伸ばしてもらいたいっていうのを思っています。

いろんな子どもがいていいと思うので、そういったところも、偏見じゃなくてその子がどうしてこういうことをしたのかなっていうのを、「寄り添いの視点」的なところでぜひ見ていただいて、それを周りの人にも周知していただきたいと。そういう目が多くなれば、救われる子どもたちは多いのかなと思っています。

あとは、社会的養護の環境作りですね。ぜひ里親の登録であるとか、今、週末里親という週末だけ預かる里親制度もあります。あとは、可能であれば施設整備へのご協力などをいただければなと思っています。あとは、社会的養護出身の子どもたちを支援してくださいというところで、いろんな会社を運営されている方が多い中で、可能であればこういった子どもたちの雇用っていうのも携わっていただきながら、そして常に面倒を気長に見てもらいたいです。1~2回逃げちゃうかもしれないし、休んじゃうかもしれないですけど、根気よく声掛けをしていただくことで、その子たちが変わるのかなと思っています。

先ほど、愛着形成のところはほんとにその幼少期の関わりっていうお話しましたが、最近その愛着が克服できるっていうのの研究も出ています。それは方法としてはいい人に会うことだそうです。信用できる人に会うこと。それは先生であったりとか、あとは地域の人であったり、あとパートナー、結婚する相手でもあるそうです。そういった信用できる人、愛着の形成の対象となる人ができることで、今まで虐待など養育環境が優れなかった人たちも救われるっていうのが、研究結果でも出ています。

なので、ぜひ皆さんもこういった理解いただきながら地域の人としてとか、あとは会社の方としてとか、こういったさまざまな出会いのきっかけを頂ければな、そうすることで救われる子どもたちは多いのかなと思っています。

すみません、長くなりましたが、以上で私の説明になります。お時間頂きましてありがとうございます。

■記念品贈呈：東京臨海西RC 西野充英会長
 ◇ご挨拶：江戸川区児童相談所（はあとポート）
 援助課長 上坂かおり様

■点鐘・閉会 東京臨海北斗RSC 坂本康朋議長
 東京臨海東RC 今西 勇会長
 東京臨海RC 佐藤大輔会長
 東京臨海西RC 西野充英会長



2. 東京臨海 RC 今年度(2021-22 年度)会計中間報告（期間：2021 年 7 月～2021 年 10 月分）の件
3. 東京臨海 RC 前年度(2020-21 年度)の財務報告の件
4. 東京臨海北斗 RSC 次年度(2022-23 年度)役員選出の件

議	長	小松	啓祐
副議長・議長	エレクト	大貫	翔吾
幹	事	井上	晴貴
副	幹	事	柴田 剛
会	計	内海	真樹

5. 東京臨海北斗 RSC 今年度(2021-22 年度)会計中間報告（期間：2021 年 7 月～2021 年 10 月分）の件
6. 東京臨海北斗 RSC 前年度(2020-21 年度)の財務報告の件

上記 6 議案は、全て原案通り承認



クラブ年次総会報告

日時 2021 年 12 月 8 日（水） 17：30～17：45
 場所 東武ホテルレバント東京 4 階「錦の間」
 出席者 東京臨海 RC 会員 59 名中 39 名出席
 東京臨海北斗 RSC 会員 23 名中 16 名出席

議案

1. 東京臨海 RC 次年度(2022-23 年度)理事・役員選出の件

【役員】

会長	杉浦	孝浩
副会長・会長エレクト	酒井	教吉
幹事	井上	晴貴
会計	内海	真樹
会場監督 (SAA)	柴田	剛
直前会長	佐藤	大輔
副幹事	柴田	剛

【理事】

クラブ奉仕委員長	酒井	教吉
職業奉仕委員長	本多	信雄
社会奉仕委員長	坂本	康朋
国際奉仕委員長	勝間田	健一
青少年奉仕委員長	大西	洋平
会計監査	田村	浩康
親睦活動委員長	佐久間	裕章
親睦活動副委員長	齊藤	実
社会奉仕副委員長	鈴木	孝行
青少年奉仕副委員長	高橋	映治
ロータリー情報(クラブ研修リーダー)兼務	佐藤	正樹
衛星クラブ議長	小松	啓祐

※理事会は上記役員・理事の計 17 名で構成する。

《例会・忘年家族会報告》

日時 2021年12月8日(水)

場所 東武ホテルレバント東京 4階「錦の間」
東京臨海 RC 第1223回例会
東京臨海北斗 RSC 第32回例会

2021-2022年度

東京臨海ロータリークラブ
東京臨海北斗ロータリー衛星クラブ
忘年家族会

18:00 例会開会

司会 井上晴貴 SAA 委員長

■点鐘:東京臨海RC 佐藤大輔会長
東京臨海北斗RSC 坂本康朋議長



■国歌「君が代」 今井 博ソングリーダー
■ロータリーソング「奉仕の理想」・「四つのテスト」
■会長報告 佐藤大輔会長
・東京江戸川RC様、東京臨海東RC様、東京臨海西RC
様よりお祝金を頂戴いたしました。

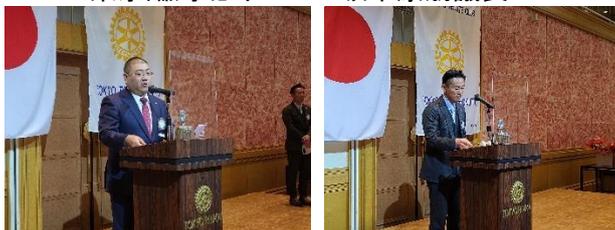


・入会式

東京臨海RC新会員 諫山豊様
職業分類:引越運送業
推薦者:勝間田健一会員・尾身治彦会員
カウンセラー:井上晴貴会員
所属委員会:会場監督委員会



■点鐘:東京臨海RC 佐藤大輔会長
東京臨海北斗RSC 坂本康朋議長



18:15忘年家族会開会

総合司会 篠塚慎之介親睦委員長

■開会挨拶・来賓紹介 佐藤大輔会長

■来賓挨拶

◇東京江戸川RC会長 稲山雄一様



あらためまして皆様こんばんは。ただいまご紹介に預かりました稲山と申します。本日は副会長、幹事と3名で参りました。お招き頂きありがとうございます。

今日この会場来た時に本当に凄いなと。こんなにたくさんい

で羨ましい限りです。

私も親クラブでございますが、子クラブに学ぶことはたくさんあって、委員会などもそうですが、たくさんの方の刺激を受けております。今日のことをクラブに持ち帰って報告したいと思います。我々のクラブは忘年会は中止となってしまいました。今日はご家族の方もいらっしゃいますので、本日もこちらにご臨席のみなさま、ご家族のみなさまのご健勝・ご多幸を祈念してご挨拶とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

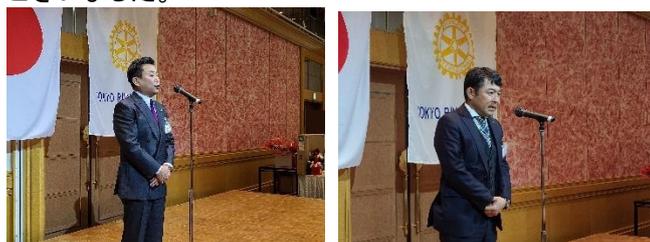
◇東京臨海東RC会長 今西 勇様

皆様、こんばんは。先程紹介いただきました東京臨海東RCの今年度会長を仰せつかっております、今西勇と申します。今日は東京臨海RCの家族会ということで心より、お喜び申し上げます。今日はこのような成大な会に呼んでいただき、本当にありがとうございます。今日は副会長の播磨、幹事の森山と3名で来させていただきました。今年、実は昨日、忘年会をさせていただきました。全く違うんですね。この迫力が。たぶん、4分の1ぐらいの数であろうと思うんですけども、ものすごく緊張しております。それと委員会などでも足元にも及ばないなと思えました。東京臨海東RCは臨海軍団の1つなのでみなさん、これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。本日はありがとうございました。

◇東京臨海西RC会長 西野充英様

皆様、こんばんは。ただいま、ご紹介いただきました、東京臨海西RCの西野でございます。我々のクラブは3年前に創られたクラブでわたくしが今3代目の会長として拝命をしているということでございます。本日は三橋幹事、名誉会員の栗山ファスト会長、そして飯塚ファスト会長、そしてスペシャルゲストの油井会員と総勢6名でお邪魔しております。わたくし4年前に会に入らせていただいて、それ以来、毎年家族忘年会こさせていただけますが、こんなに迫力ある会はありません。我々のクラブは来週の土曜日

夜の忘年会ということではなくクリスマス家族会として70名でやる予定です。今日は楽しむということといろいろいいところを盗んで帰ろうと思っています。本日はありがとうございました。



■ 会員・家族紹介 勝間田健一幹事

■ 乾杯 佐久間裕章直前会長



・食事開始



■ プレゼント抽選会 親睦委員会・SAA委員会

■ 奨学生ご挨拶

◇元青少年交換学生 石川緑様

こんばんは。初めましての方もお久しぶりの方もいらっしゃると思いますが、自己紹介させていただきます。私は石川緑と申します。この臨海 RC にお世話になって十数年になっております。高校3年生のときに国際交換留学生として1年間メキシコに行ったのが2007年、それ以降毎年この家族忘年会に招待いただいて感謝しております。私の妹もおかげで海外に興味をもちまして私より海外経験が多いのですが、今海外で仕事をするべく一生懸命頑張っています。私も就職して10年になるんですが、そんな妹に感化されて私も海外で生活をもう一度したいという夢をもって勉強しているところです。皆様にいい報告をしたいと思しますのでよろしくお願い致します。ちょっと結婚はごめんなさい、もうちょっとまだ先になりますが、いつかいい報告できるように頑張ります。これからもよろしくお願い致します。今日は本当にありがとうございました。

◇米山奨学生 レー・クオック・アン様

皆様、こんにちは。初めての方もいらっしゃいますので簡単に自己紹介します。私はレー・クオック・アンと申します。今年の4月から米山奨学生となり、あと1年でもうすぐ社会人になるんですけど、米山に入った頃はオンライン例会で、8月ぐらいから実際に例会に参加し、歓迎会も開いて頂き参加して楽しかったのを思っています。皆様からの愛情をたくさんいただきました。あと1年でたくさん勉強していい報告ができるようにがんばります。ありがとうございました。



◇大西英男様



ご紹介をいただきました大西英男でございます。

今日は大西洋平の家族の一員として家内と一緒にまいりました。口下手でございますので、ましてやこんな大勢の皆様の前で挨拶というのは言葉ものどに詰まってしまうかもしれませんが、もう1つはですね、心にも詰まってしまう。それは私は臨海 RC のチャーターメンバーの1人なんです。ちょうどその頃から今、生き残っていらっしゃる方は、数少ないんですね。90歳の須藤会員、斎藤さんもそうでしたよね。そして、佐久間さん、そんな下向かないで下さいよ。一緒に仲間じゃないですか、その頃の。そして、私は臨海ロータリーに入ってた頃に世界大会に行ったんですね。その時に須藤会長と佐久間さんぐらいですかね。年齢的には。ある意味、私の先輩ばかりで話が合わないんですよ。その時にたまたま、あの一緒にお酒も飲める、話ができるというのが鈴木会員だったのですね。ですからバスでマンマーズをずっとまわって移動していたときに後ろで話をし続けていました。それが今日に至る、お付き合いの礎になったわけでございます。そういった意味でもですね、ロータリーはそういった意味ではお仕事の利害とかそういったものを抜きにして本当に人間的なお付き合いができる素晴らしいグループだと思っています。そして、考えることは世のため、人のため、点鐘をした皆さんも言っていましたけれど、そういった人々をどうやってみんな育てていくか、そういった意味では私も今日、ロータリーのクリスマス会に家族の一員として参加してですね、心が洗われます。今日こういった素敵な会にお招きいただき数十年前の青春時代にかえったような思いです。今日は素敵な会にご参加させていただきましてありがとうございました。どうぞ、よいお年をお迎えくださいませ。

■ ~ A letter of thanks ~

櫻田誠一会員・田中紘太会員



■ 直前会長・幹事スピーチ

◇佐久間裕章直前会長

◇坂本康朋直前幹事

■ 閉会挨拶 副会長 杉浦孝浩



■ 集合写真撮影



■ 2021年12月8日出席状況報告

東京臨海 RC

会員数：59名 出席：39名

欠席：20名 出席率 67.24%

お客様：63名

東京臨海北斗 RSC

会員数：23名 出席：16名

欠席：7名 出席率 69.57%